

第6章 関連文化財群

1. 関連文化財群の設定の考え方

ここでは、第3章で整理した「宇都宮市の歴史文化の特徴」を踏まえ、関連の深い歴史文化資源を一体的に捉え、関連文化財群として設定していくことを検討する。

(1) 関連文化財群の定義

指定・未指定を問わず、市内に所在する様々な歴史文化資源を、歴史的・地域的な関連性に基づいて、歴史文化の特徴を語るテーマを設定し、テーマに関連する歴史文化資源を一つの群として整理したもの。

(2) 設定の目的

関連する複数の歴史文化資源を、関連性に基づいて一体的に整理し、保存活用することにより、歴史文化資源の魅力を高めるとともに、本市の歴史文化や歴史文化資源の価値を魅力的な形でわかりやすく市民に伝え、歴史文化に係る意識の共有を図ることを目的とする。

(3) 設定の方針

本市に所在する多種多様な歴史文化資源の中から、「宇都宮市の歴史文化の特徴」で示した特性を踏まえ、以下の点を考慮して「関連文化財群」を設定した。

- ① 宇都宮市の歴史文化の特性を語る上でのキーワードを軸に、現在に繋がる宇都宮の魅力・特徴や市民が共感を生むポイントを考慮し、テーマを設定すること
- ② 特に、本市の特色として積極的に情報発信するものをメインテーマとして設定すること
- ③ 対象となる歴史文化資源が相互に歴史的関連性を有し、その内容及び価値が明らかなものであること
- ④ 指定・認定・登録文化財を含み、共通する保存・活用のテーマが見いだせること

(4) ストーリーの作成

上記の方針により設定した関連文化財群について、本市の歴史的な魅力や特色をわかりやすく伝えるために以下の留意点に配慮してストーリーを作成する。

ストーリーは、今の自分たちの暮らしや文化がどのような成り立ちや出来事を経て培われてきたのかを認識し、本市の歴史に興味を持てるよう大きな括りで読み手の心に響くものとする。

- ア 文頭を疑問提示型とし、読み手の気を引き、内容を知りたくなるような構成とする。
- イ 宇都宮とはどんなまちなのかを、市民が覚えやすく、語りやすい内容表現とする。
- ウ 一般論ではなく、今につながる宇都宮らしさを組み込んだ内容とする。
- エ 歴史文化資源の説明に終始せず、事象の由縁やその事象が次の時代にもたらした影響などを語るものとする。

(5) エイト・ストーリーの設定

上記ストーリーの作成の視点に基づき、関連文化財群それぞれにストーリーを作成し、「うつのみやの歴史を紐解く(エイト)・ストーリー」と総称することとした。

また、8つのストーリーを、その性質毎に分類し、ゼネラルストーリー(総論)、時代を貫くストーリー、時代の特徴を表すストーリーの3つに区分し、効果的に周知を図れるようにした。

ア ゼネラルストーリー

- ◆ 宇都宮の「住みやすさ」をキーワードとし、自然や地形を背景に時代横断的な宇都宮の歴史をテーマとした総論 「<1>今も昔も住みやすい関東平野の里山都市 うつのみや」

イ 時代を貫くストーリー

古代～現代までの時代を通して本市の歴史文化の特性を語るキーワードとなる視点を有し、本市が積極的に情報発信するテーマとし、以下の3つのストーリーとした。

- ◆ニ荒山神社と宇都宮城を結ぶラインを核として発展してきたまちの歴史と、鎌倉幕府の中核メンバーで「百人一首」ゆかりの武将としても有名な宇都宮氏を中心としたストーリー
「<2>文武に秀でた宇都宮氏の本拠地 うつのみや」 尚、市の名前を冠した一族の物語であり、宇都宮氏改易後もその家臣たちが帰農し、地域の有力者となり地域をまとめるなど、現代まで続くストーリー
- ◆古代～現代まで、国の中枢部と東北を結ぶ主要道路がとおり、様々な文物が行き交うことにより「宇都宮文化」が生み出されたストーリー
「<3>2つの街道の追分、水運の鬼怒川 人・物・情報の交流拠点 うつのみや」
- ◆大谷石が古代から中世にかけて炉や墓石などに使用され、近世以降は建物の建築材や塀などの土木構築材として使用されるなど、本市の生活の中に密着した石をテーマとしたストーリー 「<4>古代から現代まで 大谷石がつくり繋いだ石のまち うつのみや」

ウ 時代の特色を表すストーリー

各時代や地域の突出した特徴をキーワードとし、以下の4つのストーリーとした。

- ◆宇都宮南部に集中する古代の遺跡を中心に河内郡の形成に至るまでのストーリー
「<5>古代国家を支えた下毛野氏基盤の地 うつのみや」
- ◆近世に「將軍の宿城」という特色を生かし、学問や文化が花開いた城下町のストーリー
「<6>徳川將軍も泊った華やかな城下町 うつのみや」
- ◆近代の戊辰戦争と太平洋戦争における宇都宮空襲と2度の戦災にも挫けず、町の復興を果たした宇都宮市民のストーリー「<7>二度の戦災をたくましく生き抜いたまち うつのみや」
- ◆宝木用水掘削の歴史や田園地帯に今でも残る屋台や天棚、天祭や獅子舞などの伝統行事をテーマとしたストーリー「<8>農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地 うつのみや」

■関連文化財群「うつのみやの歴史を紐解く8ストーリー」



(6) 関連文化財群の活用の方向性

本市の歴史を知り、理解するための基本情報として、教育や生涯学習、観光やまちづくりなどの様々な場や機会を通じて活用を図り、普及啓発に取り組む。

なお、基本情報は市のホームページや公式パンフレットなどを通じて幅広く誰でも取得することができるようにするとともに、新しい事実の発見や評価の更新等がなされた場合には速やかに内容の修正を行うこととし、誤った事実や評価が流布することがないように維持管理に取り組む。

①学校教育や生涯学習における活用

小学校の「総合的な学習の時間」における調べ学習のテーマや生涯学習センターでの公開講座や市民講座等のテーマとして活用

②展示施設での情報発信やイベント等での活用

「うつのみやの歴史文化を紐解くエイトストーリー」をテーマにした文化財展示施設での企画展や、まち歩きイベント(百人一首ウォークラリーやウォーキングフェスタ等)のコース設定の際の参考として活用

③観光やまちづくりでの活用

観光マップの作成や観光ルートの設定など観光資源の整備におけるコンセプトや、都市整備や地域振興、地域におけるまちづくりにおけるコンセプトを考える際の参考として活用

④図書館や美術館での活用

図書館や美術館等で歴史文化に関する資料を収集する際に、その方針を立てる際の参考として活用



2. 関連文化財群の概要

< 1 > 今も昔も住みやすい関東平野の里山都市 うつのみや



宇都宮市街地空撮

■ストーリー

なぜ、うつのみやには、今も昔もたくさんの人が集まってくるの？

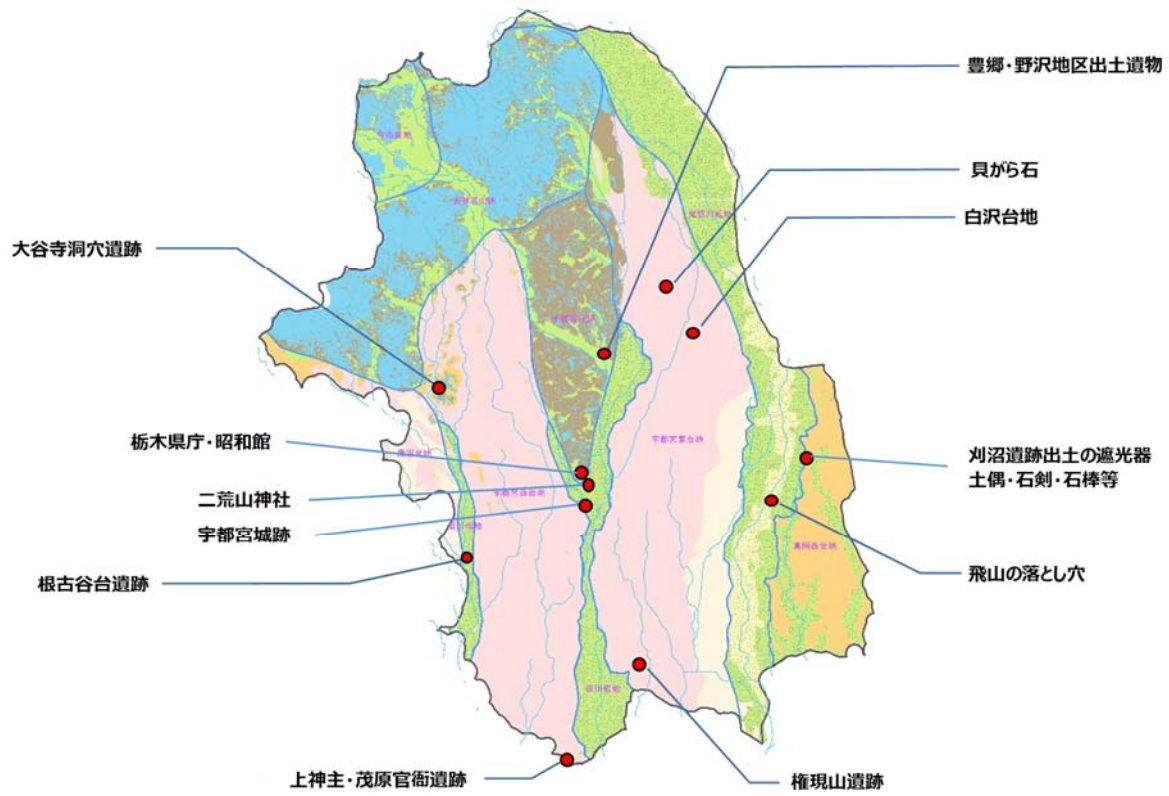
日本最大の面積を誇る関東平野の北端に位置するこの地は、都市の文化と多様な自然が入り交じり、豊かな自然の恵みを育むとともに、多様な文化が出会い新たな文化を生み出してきた。

南北に流れる幾筋もの川に挟まれた安定した台地を生活の場とし、すでに4～3万年前には人が住み始め、石器を使ってイノシシやシカなどの中小動物の狩猟を行っていた。その後、縄文時代になると大型の建物が墓域を囲む拠点的なムラが登場した。古墳時代には田川沿いに豪族が居館を構えこの地域を治め、飛鳥・奈良時代には河内郡の中心となる役所跡が上三川との境に設置され、律令国家体制に組み込まれていった。

中世になると、この河内郡内の一つのムラであった池辺郷内にあった宇都宮明神(二荒山神社)と、神官領主宇都宮氏の居館を中心に町が栄え、更に近世には、徳川幕府の譜代大名が日光道中と奥州道中の分岐点である宇都宮の地を治め、近世の城下町として発展し、将軍の日光社参や参勤交代の大名行列をはじめとする多くの人々が行き交う町となった。現在の宇都宮の中心市街地の骨格は本多正純の時代に形づくられた。

更に、近代に栃木町から宇都宮町に県庁が移ったことにより、政治や商業の中心となり、より多くの人々が集住し、現在は50万人の暮らす中核市に指定され、北関東最大の都市となった。宇都宮は自然災害が少なく水資源にも恵まれ、安心して暮らせる「住みやすいまち」である。

■ 主な構成歴史文化資源の分布



■ 主な構成歴史文化資源

分類		主な構成歴史文化資源	
空間資源 (不動産)	自然的空間資源	1-1 地形・地質	宇都宮丘陵, 宇都宮西台地, 宇津宮東台地, 真岡西台地, 鹿沼台地, 姿川低地, 田川低地, 鬼怒川低地, 古賀志山地, 今市盆地, 白沢台地, 貝がら石
		1-2 河川・沼	鬼怒川, 田川, 姿川, 釜川
	歴史的空間資源	2-4 建造物	栃木県庁・昭和館
		2-7 城跡・遺跡	★根古谷台遺跡 (うつのみや遺跡の広場), 野沢遺跡, ★上神主・茂原官衙遺跡, 飛山の落とし穴, 大谷寺洞穴遺跡, 権現山遺跡, 宇都宮城跡
	2-8 寺院・神社・祠等	二荒山神社	
生活資源 (動産)	モノ	5-10 考古資料	★根古谷台遺跡土壌出土品, ☆宇都宮市北部 (豊郷・野沢地区) 出土遺物, ☆宇都宮市近郊出土古代土石器, 刈沼遺跡出土の遮光器土偶・石剣・石棒等
	記録・情報	6-4 写真	根古谷台遺跡, 遺跡の広場で開かれた縄文の夕べ

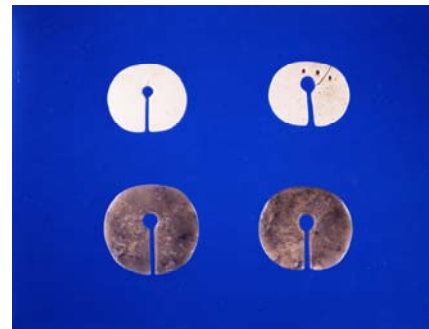
★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線: 市民ワークショップで取り上げられた資源



市内で発見された4~3万年前の落とし穴跡 (飛山の落とし穴)



根古谷台遺跡



根古谷台遺跡墓坑出土品

＜2＞文武に秀でた宇都宮氏の本拠地 うつのみや



蓮生法師自画像



＜左＞宇都宮頼綱（蓮生） ＜右上＞二荒山神社 ＜右下＞宇都宮貞綱・公綱の墓

■ストーリー

百人一首ゆかりの宇都宮氏とは、どんな一族だったの？

二荒山神社の社務職(※1)を兼ねこの地を治めていた宇都宮氏は、鎌倉幕府の要職を務めたほか、独自の和歌集を作るなど文武に秀でた武将であった。

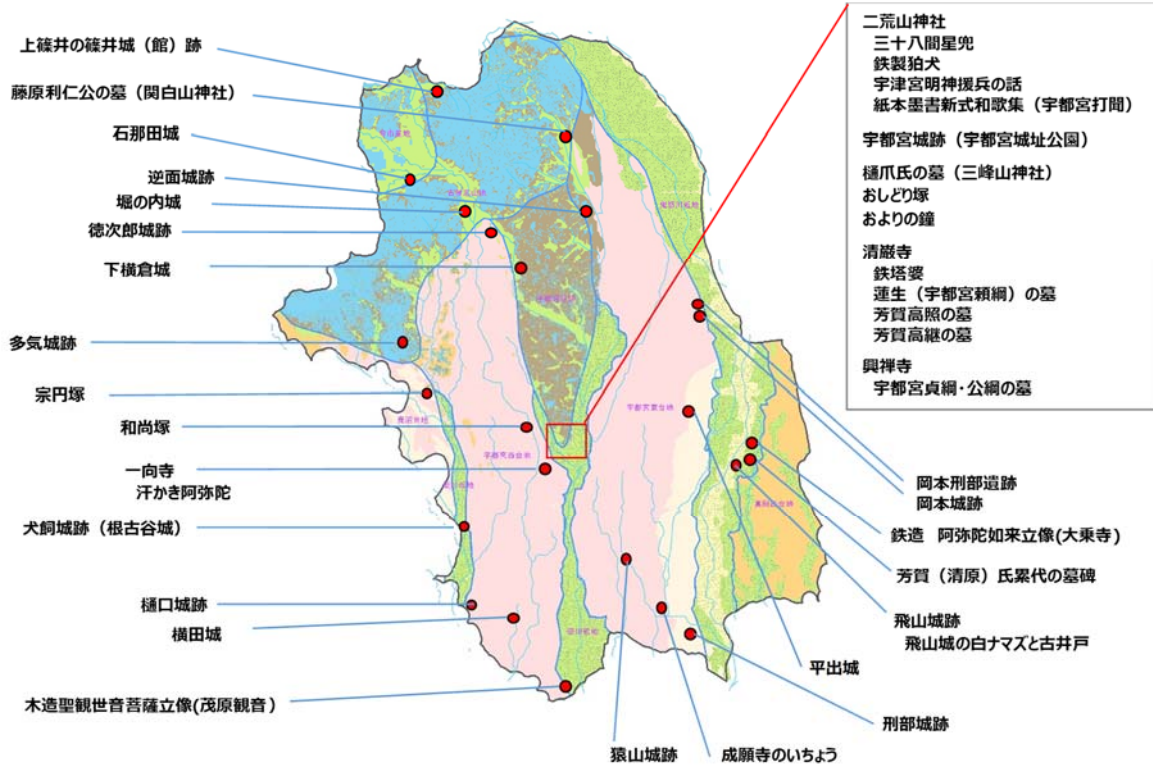
3代朝綱は、源頼朝の挙兵を助け、鎌倉幕府の樹立に多大な貢献をし、頼朝から宇都宮明神檢校(※2)の立場を認められ、宇都宮氏の名を始めて名乗った。5代頼綱(後の蓮生)は、当代随一の歌人藤原定家と親交があり、出家して京都に居を構えた際、その山荘の襖に貼る色紙和歌を定家に百首選ばせた。これが後の「百人一首」のもとになったと言われる。宇都宮氏は独自に宇都宮歌壇を形成し、「新式和歌集」を編纂するなど文化に対する造詣が深かった。8代貞綱は、元軍の襲来を迎え撃つ日本の命運がかかった戦いにおいて約6万人の軍を率いる日本の総大将として九州に出陣した。9代公綱は、知略に富んだ楠木正成と戦い、「坂東一の弓矢とり」と評され、武勇に秀でた武将であった。10代氏綱は、足利尊氏に認められ、上野(群馬県)・越後(新潟県)の2か国の守護職を務めるなど、関東で強い力をもった。

このように宇都宮氏は、軍事的にも文化的にも栄華を極めるが、22代国綱の代に豊臣秀吉により改易(※3)され、約500年にわたるその歴史に幕を下ろした。宇都宮氏は近世まで残ることができなかったが、宇都宮氏の旧臣たちは土着し、その後の地域の発展を支えた。また、宇都宮氏が種をまいた「百人一首」は現代に引き継がれ、多くの人々に愛されている。

市内には、宇都宮氏が戦国末期に小田原北条氏に対抗するために本拠とした関東最大級の山城である多気城や、宇都宮氏の重臣であった芳賀氏が鬼怒川沿いに築いた飛山城など、宇都宮氏の一族や家臣が築いた城跡が数多く確認されており、宇都宮氏の栄華の一部を今に残し伝えている。(※1)社務職…神社の事務全般をつかさどった神職の長

(※2)檢校…平安時代・鎌倉時代に置かれた寺院や荘園の事務の監督役職名のこと (※3)改易…領地を没収し、大名をとりつぶすこと

■主な構成歴史文化資源の分布



■主な構成歴史文化資源

分類		構成歴史文化資源	
空間資源 (不動産)	自然的空間資源	1-6 名木	☆成願寺のいちよう
	歴史的空間資源	2-1 道	飛山城への道
		2-6 古墳・塚	宗円塚, 和尚塚
		2-7 城跡・遺跡	★飛山城跡, ☆刑部城跡, ☆岡本城跡, ☆逆面城跡, 多気城跡, 徳次郎城跡, 宇都宮城跡, 犬飼城跡, 樋口城跡, 石那田城, 藤本館, 下横倉城, 堀の内城, 岡平城, 中城, 平出城, 淡路城, 石井城, 江曾島城, 東川田城, 猿山城跡, 桑島城, 横田城, 岡本刑部遺跡, 上篠井の篠井城(館)跡
		2-8 寺院・神社・祠等	二荒山神社, 清厳寺, 興禅寺, 一向寺
2-9 旧跡	裳原古戦場, 粉河寺跡		
生活資源 (動産)	ヒト・生き物	3-1 人物	藤原宗円, 宇都宮頼綱(蓮生), 藤原定家, 横田氏, 宇都宮貞綱, 宇都宮公綱, 藤原利仁, 芳賀氏, 刑部氏, 横田氏, 逆面氏, 樋爪氏, 江曾島氏, 平出氏, 石井氏
	モノ	5-3 金属工芸品	★鉄塔婆, ★三十八間星兜, ★鉄製狛犬, ☆およりの鐘, ◆銅版阿弥陀曼荼羅
		5-4 仏像・石仏	◆鉄造阿弥陀如来立像(大乗寺), ☆木造聖観世音菩薩立像(茂原観音), ★銅造阿弥陀如来坐像(汗かき阿弥陀)
		5-7 墓所・墓石	☆芳賀(清原)氏累代の墓碑, ☆藤原利仁公の墓, ☆樋爪氏の墓, 蓮生(宇都宮頼綱)の墓, 宇都宮貞綱・公綱の墓, 芳賀高照の墓, 芳賀高継の墓
	記録・情報	6-1 文献資料	☆紙本墨書新式和歌集(宇都宮打聞), ☆宇都宮領岡本村太閤検地帳, ☆下小倉元和検地帳, ◆一向寺文書(甲・乙二軸)
6-3 民話・伝説・出来事		☆おしどり塚, ★汗かき阿弥陀(一向寺), 宇津宮明神援兵の話, 飛山城の白ナマズと古井戸	

★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線: 市民ワークショップで取り上げられた資源



飛山城跡



多気城跡

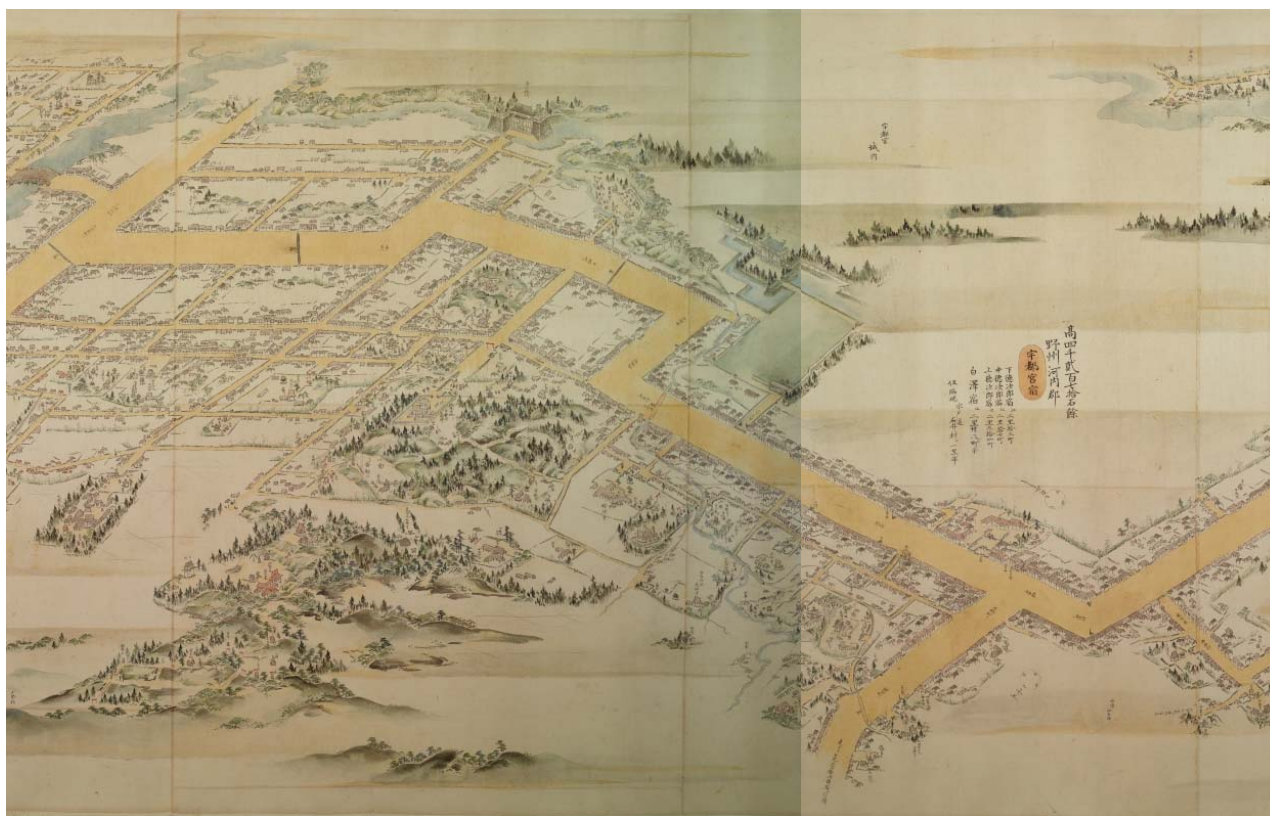


紙本墨書新式和歌集



清厳寺鉄塔婆

<3> 2つの街道の追分、水運の鬼怒川 人・物・情報の交流拠点 うつのみや



『日光道中問延絵図』5巻之内4宇都宮宿（東京国立博物館蔵，画像提供：東京国立博物館）

■ストーリー

なぜ、うつのみやは多くの人が行き交うまちなの？

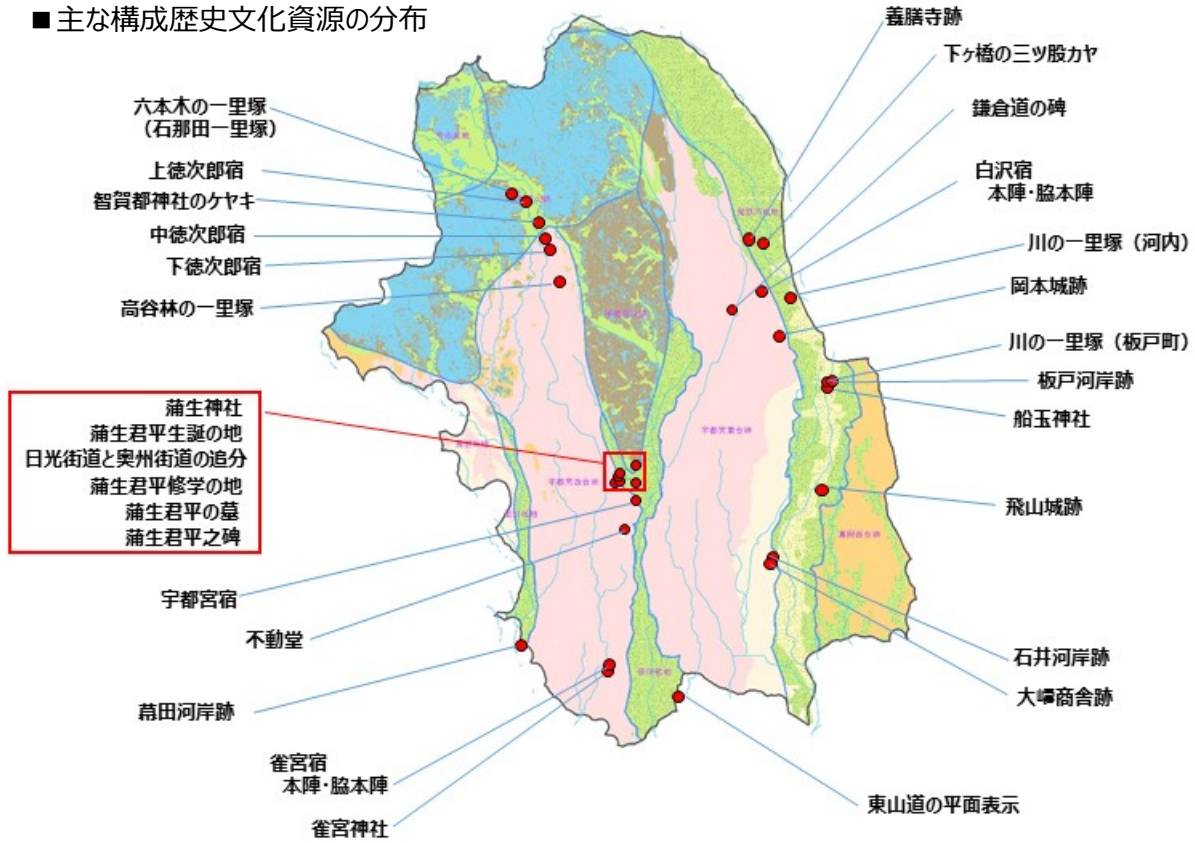
古代には都と陸奥国を結ぶ「東山道」を通して坂上田村麻呂や源義家が東北平定に向かい、中世には鎌倉と奥州を結ぶ「奥大道」を通して源頼朝や豊臣秀吉が宇都宮に立ち寄り、戦勝祈願や宇都宮仕置を行い、近世には江戸を起点とした五街道のうちの「日光道中・奥州道中」の2つの街道の追分の地となり、徳川将軍や参勤交代の大名の宿泊所として多くの人と物が行き交った。

近代以降は、東京を起点とした国道4号線が通り、東北地方に向けての陸上輸送の大動脈となるなど、この地は常に日本の中心部と東北を結ぶ主要幹線がとおる陸上交通の要衝の地であった。

また近世になると鬼怒川沿いに河岸がつくられ、下野諸藩や会津藩等の年貢米などを江戸に送るなど水上輸送の重要な役割を果たしていた。明治期には大宮から宇都宮までの鉄道が開通し大量物資輸送を担うようになり、水上輸送から鉄道輸送にその主役の座を譲る。なお宇都宮駅は駅弁発祥の地とも言われている。

このように宇都宮は、街道、河川、鉄道を通じて、いつの時代にも人・物・情報が行き交い、その結果、新しい芸術文化や技術などを吸収し、宇都宮歌壇が生まれ、我が国器械製系の先駆となる大嶋商舎が造られるなど、常に変化しながら発展してきたまちである。

■ 主な構成歴史文化資源の分布



■ 主な構成歴史文化資源

分類		構成歴史文化資源		
空間資源 (不動産)	自然的空間資源	1-6 名木 ◆智賀都神社のケヤキ ◆下ヶ橋の三ツ股カヤ		
	歴史的空間資源	2-1 道	東山道, 奥大道, 日光道中, 奥州道中, 鎌倉街道, 義家街道, 頼朝街道, 義経街道, 稚児ヶ坂, 東山道の平面表示, 日光街道と奥州街道の追分, 六本木の一里塚 (石那田一里塚), 高谷林の一里塚	
		2-2 宿・駅	雀宮宿, 宇都宮宿, 上徳次郎宿, 中徳次郎宿, 下徳次郎宿, 白沢宿, 中里宿	
		2-3 軌道 (水運、用水)	板戸河岸跡, 石井河岸跡, 道場宿河岸, 鑑山河岸, 幕田河岸跡, 岡本河岸, 板戸河岸閘屋跡 (坂本家), 鬼怒の渡し跡, 野猿の渡し	
		2-5 街並み・建造物群	白沢宿のまちなみ	
		2-7 城跡・遺跡	★飛山城跡, ☆岡本城跡	
		2-8 寺院・神社・祠等	雀宮神社, 不動堂, 光明寺, 蒲生神社	
		2-9 旧跡	白沢宿・本陣, 白沢宿・脇本陣, 雀宮宿本陣・脇本陣, 雀宮宿高札場, 蒲生君平生誕の地, 蒲生君平修学の地	
		2-10 土木構造物	旧東北本線跡	
		生活資源 (動産)	コト	4-2 芸能
4-3 民間信仰・年中行事	船玉神社【民間信仰】, 安婆大杉様			
4-4 産業・生業・手仕事	大崎商舎跡			
4-5 伝統食	鬼怒のアユとゴボウ汁			
5-6 道祖神・道標・碑	鎌倉道の碑, 川の一里塚, ☆靄屋山人碑, ☆蒲生君平勅旗碑, 蒲生君平之碑, 芭蕉句碑, 文可句碑, 川上澄生の碑			
モノ	5-7 墓所・墓石		蒲生君平の墓	
	記録・情報		6-1 文献資料	☆蒲生君平柿餅の手紙付肖像 (蒲生君平), ☆蒲生秀実書簡 (蒲生君平)
			6-2 絵図	日光道中分間延絵図・江曾嶋村
			6-3 民話・伝説・出来事	養膳寺跡, 静桜, 雀の宮・雀宮神社の伝説

★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線：市民ワークショップで取り上げられた資源



智賀都神社のケヤキ



白沢宿



川の一里塚 (板戸町)



東山道の遺構

＜4＞古代から現代まで 大谷石がつくり繫いだ石のまち うつのみや



大谷資料館（カネイリヤマ採石場地）

■ストーリー

なぜ、このまちの人々は大谷石を使い続けているの？

大谷石は宇都宮の人々にとって古より身近に触れることができる存在であった。この地に住む人々は、その石質の特質を見抜き、竪穴住居のカマドや横穴式石室の石材として使ったほか、白肌を露出する石山に磨崖仏を彫り人々の安寧を願った。

江戸時代には、宇都宮城の御用石として価値づけられ、二荒山神社の石垣修築にも用いられた。さらに時代が進むと、大谷石の建材としての需要から採石産業が確立し、長年の採掘により掘り残された石切場と、自然の奇岩群との人工と自然が織りなす固有の景観が今に残る。

近代では、フランク・ロイド・ライトが旧帝国ホテルの建材として使用するなど、加工がしやすく、耐火性に優れた石材であることから、公共建築や耐火性の高い建築などにも用いられ、高度成長期には、土木構築材などに使われ都市の形成を支えた。

宇都宮の人々は、大谷石を変幻自在に使いこなし、今も「石」と共に生きている。



大谷の奇岩群



大谷観音

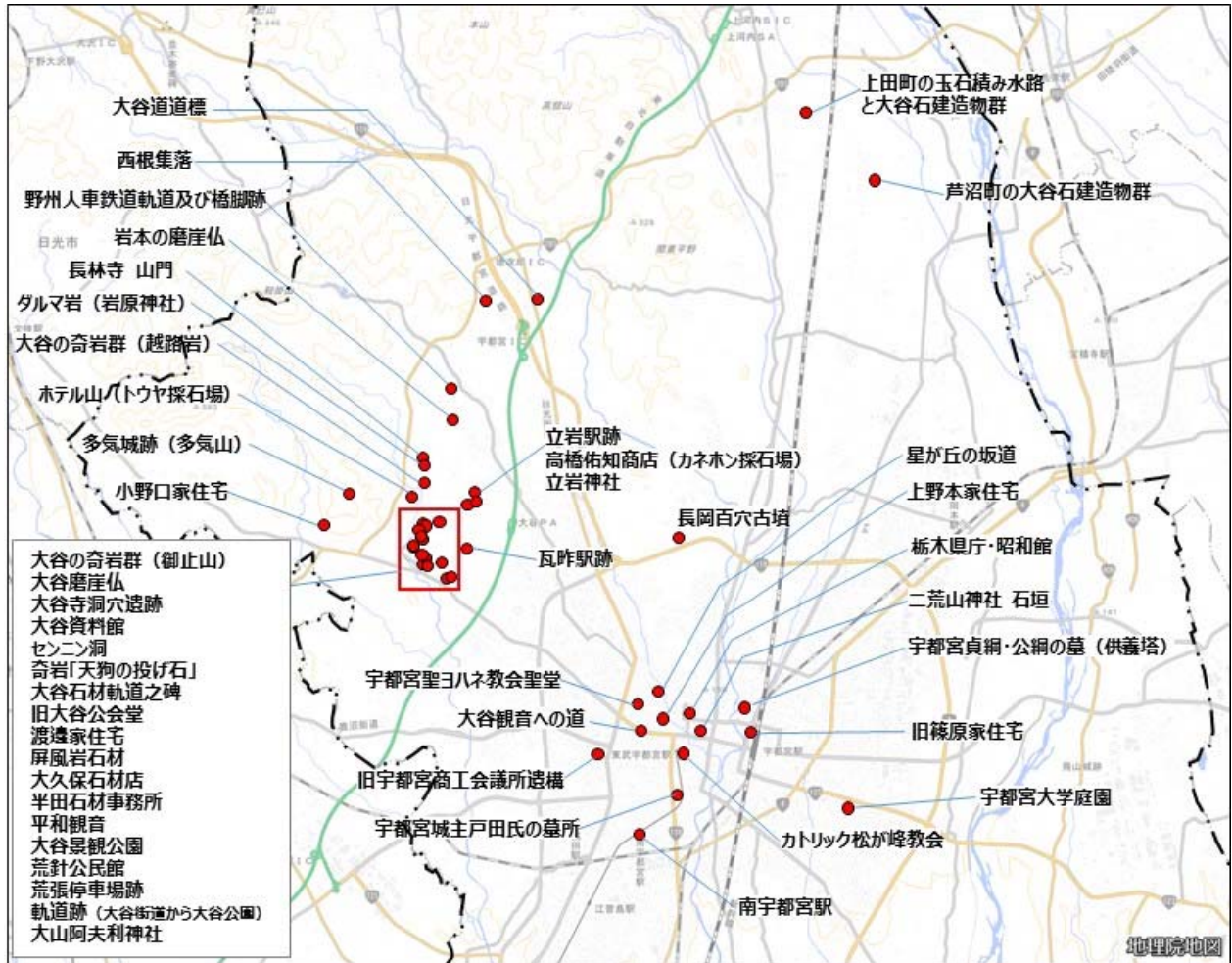


二荒山神社の石垣



カトリック松が峰教会

■主な構成歴史文化資源の分布



■主な構成歴史文化資源

分類		構成歴史文化資源	
空間資源 (不動産)	自然的 空間資源	1-1 地形・地質	★大谷の奇岩群 (御止山), ★大谷の奇岩群 (越路岩), センニン洞
		1-3 山	多気山
		1-7 その他	大谷景観公園, 大谷石が採掘された岩肌, 徳次郎石石山 (石切場跡), ★宇都宮大学庭園
	歴史的 空間資源	2-1 道	大谷観音への道, 星が丘の坂道
		2-2 宿・駅	立岩駅跡, 瓦昨駅跡, 荒張停車場跡, 南宇都宮駅
		2-3 軌道	軌道跡 (大谷街道から大谷公園)
		2-4 建造物	★旧篠原家住宅, ★小野口家住宅, ★旧大谷公会堂, ☆渡邊家住宅, ◆屏風岩石材, ★カトリック松が峰教会, ☆宇都宮聖ヨハネ教会聖堂, ☆上野本家住宅, 大谷資料館 (カネイシマ採石場), 旧宇都宮商工会議所遺構, 栃木県庁・昭和館, 大久保石材店, 荒針公民館, 半田石材事務所
		2-5 街並み・建造物群	西根集落, 芦沼町の大谷石建造物群, 上田町の玉石積み水路と大谷石建造物群, 宇都宮今市線沿線の大谷石建造物の風景, 西原歴史的建造物群地区, 清住通り歴史的建造物群地区, 徳次郎下町歴史的建造物群地区, 徳次郎中町歴史的建造物群地区
		2-6 古墳・塚	◆長岡百穴古墳
		2-7 城跡・遺跡	大谷寺洞穴遺跡, 多気城跡 (多気山)
2-8 寺院・神社・祠等	二荒山神社の石垣, 長林寺山門, 立岩神社, 大山阿夫利神社		
2-10 土木構造物	野州人車鉄道軌道及び橋脚跡, 高橋佑知商店 (カネホン採石場), ホテル山 (トウヤ採石場)		
生活資源 (動産)	ヒト・生き物	3-1 人物	弘法大師, マックス・ヒンデル, 更田時蔵, 宇都宮貞綱, 宇都宮公綱, 戸田氏
		コト	大谷石採掘の道具と技術, トロッコ運搬, 大谷石, 徳次郎石, 石製カエル
	モノ	5-4 仏像・石仏	★大谷磨崖仏, 岩本の磨崖仏, 平和観音, ダルマ岩 (岩原神社)
		5-6 道祖神・道標・碑	大谷石材軌道之碑, 大谷街道標
		5-7 墓所・墓石	宇都宮貞綱・公綱の墓 (供養塔), ☆宇都宮城主戸田氏の墓所
	5-9 産業・産業にまつわる道具	石材採掘用仕事着	
記録・情報	6-3 民話・伝説・出来事	大谷寺, 奇岩「天狗の投げ石」	
	6-4 写真	宇都宮石材軌道株式会社, 軌道全線平面図, 大谷の地下工場, 鶴田駅石材搬出光景等	

★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線: 市民ワークショップで取り上げられた資源

＜5＞古代国家を支えた下毛野氏基盤の地 うつのみや



上神主・茂原官衙遺跡

■ストーリー

なぜ、この地に古代河内郡の役所がつくられたの？

この地に古墳文化がもたらされて以来、多くの古墳が造られた。その中でも注目されるのが倭の五王の時代(5世紀)に築かれた市内最大の笹塚古墳である。この古墳の近くには豪族の居館跡や同時代の集落跡も発見されている。

『日本書紀』には二荒山神社の主祭神豊城入彦命は「上毛野君・下毛野君の祖」と記され、別の書物にはその子孫の奈良別君が仁徳天皇の時代(5世紀)に下毛野国造に任ぜられたと書かれたものもある。5世紀に築造された笹塚古墳と下毛野氏との間に何らかの関係があることを想像させる。そして、その子孫である下毛野古麻呂は、国の根幹となる大宝律令の作成に携わった人物で、都において活躍する。

古代の河内郡は、この下毛野氏が基盤とした地であり、河内郡の役所と考えられる上神主・茂原官衙遺跡は、古代の官道である東山道に隣接し、現在の宇都宮市と上三川町の両市町にまたがる場所に位置する。



笹塚古墳

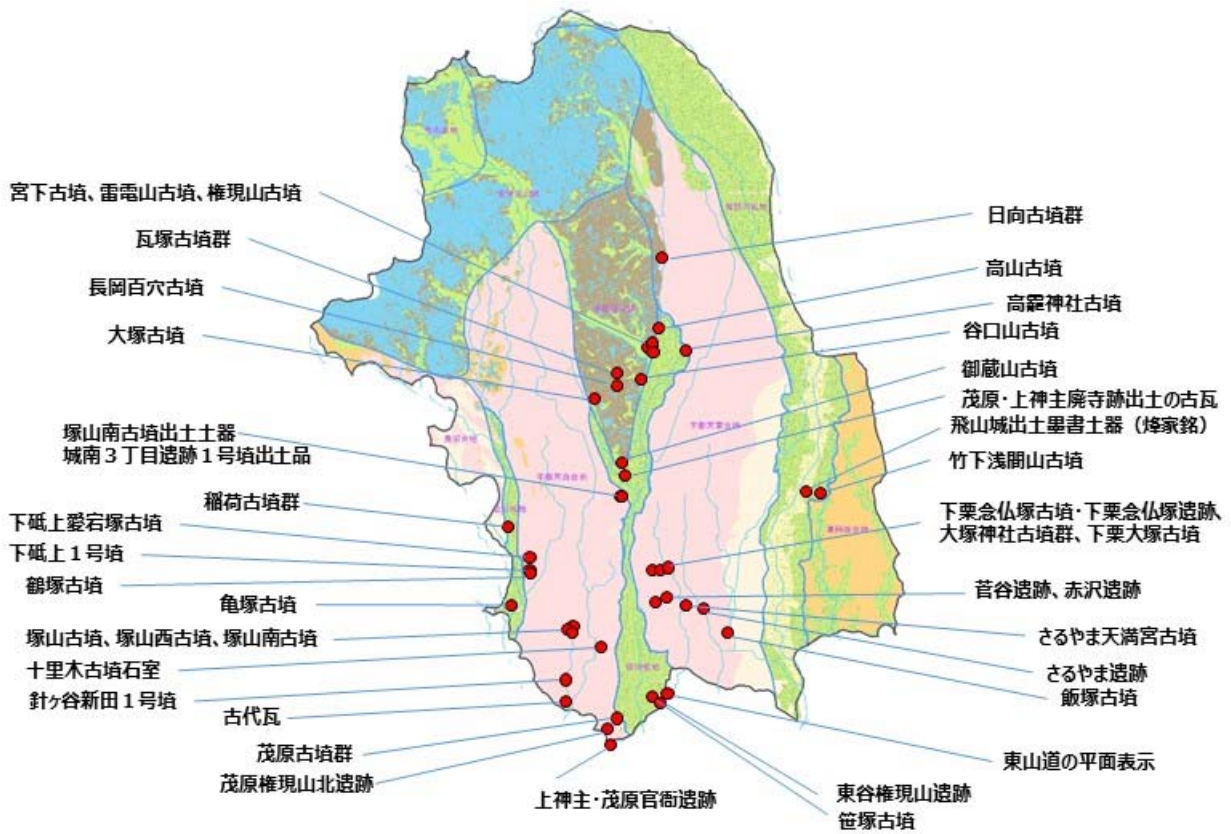


塚山古墳群



人名文字瓦

■主な構成歴史文化資源の分布



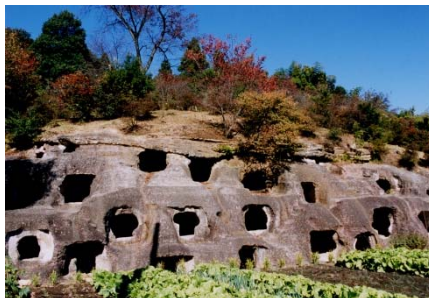
■主な構成歴史文化資源

分類		構成歴史文化資源	
空間資源 (不動産)	歴史的 空間資源	2-1 道	東山道の平面表示, 東山道
		2-6 古墳・塚	☆御蔵山古墳, ◆大塚古墳, ◆戸祭大塚古墳, ☆竹下浅間山古墳(含出土品一括), 飯塚古墳, ☆下栗大塚古墳, 下栗念仏塚古墳・下栗念仏塚遺跡, 大塚神社古墳群, さるやま天満宮古墳, 琴平塚古墳群, ◆長岡百穴古墳, ☆宮下古墳, ☆権現山古墳, ☆雷電山古墳, ☆谷口山古墳, ☆瓦塚古墳群, 北山古墳群, ◆塚山古墳, ◆塚山西古墳, ◆塚山南古墳, ☆稻荷古墳群, 龜塚古墳, 下砥上愛宕塚古墳, 針ヶ谷新田1号墳, 下砥上1号墳, 鶴塚古墳, ◆笹塚古墳, 茂原古墳群, 十里木古墳石室, ☆高麗神社古墳, ☆高山古墳, 日向古墳群
		2-7 城跡・遺跡	★上神主・茂原官衙遺跡, 東谷権現山遺跡, 花の木町遺跡, 姿川第一小南遺跡, 辻の内遺跡, 菅谷遺跡, 赤沢遺跡, さるやま遺跡, 茂原権現山北遺跡
生活資源 (動産)	モノ	5-10 考古資料	☆茂原・上神主廃寺跡出土の古瓦, ☆城南3丁目遺跡1号墳出土品, ☆塚山南古墳出土土器, ◆飛山城出土墨書土器(烽家銘), ☆古代瓦

★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線: 市民ワークショップで取り上げられた資源



下栗大塚古墳



長岡百穴古墳



雷電山古墳

＜6＞徳川将軍も泊まった華やかな城下町 うつのみや



■ストーリー

宇都宮城内外絵図

どうして宇都宮城に徳川将軍が泊まったの？

宇都宮城は、川越城、古河城に次いで将軍が日光社参をする際に泊まった城で、合計19回も将軍家が宿泊している。また、宇都宮城は、伊達政宗など外様大名に対する押さえの城として代々譜代大名が入封(※4)する軍事・交通上の重要拠点であった。本多正純は、宇都宮城とその城下の整備を行い、奥州道中の付け替え等の町割りを大幅に変え、近世の城下町としての基盤を整えた。現在の宇都宮は、この正純が整備した町割りがベースとなっている。正純は1622年の徳川秀忠日光社参後に突然改易となるが、これを題材とした『宇都宮釣り天井』伝説は、正純が将軍の暗殺を企てたとする創作で多くの講談や歌舞伎の題材とされた。

当時の宇都宮城下には約1万人が住んでいたと言われ、日光・奥州道中の追分となる伝馬町周辺には、本陣や問屋場、旅籠が軒を連ねていたほか、日野町、紺屋町、鉄砲町、肴町など様々な業種の人々が集積して城下を形成していた。二荒山神社の菊水祭付祭は、各町から屋台や山車がくり出され大いに賑わい、江戸期の「日本国中御祭番付」で最上位に名を連ねていた。近年、市民の手により火焰太鼓山車や桃太郎山車が復活されるなど、今もそのDNAは引き継がれている。(※4)入封…土地を与えられた大名がその領地に入ること



宇都宮城跡



宇都宮城主戸田氏の墓所

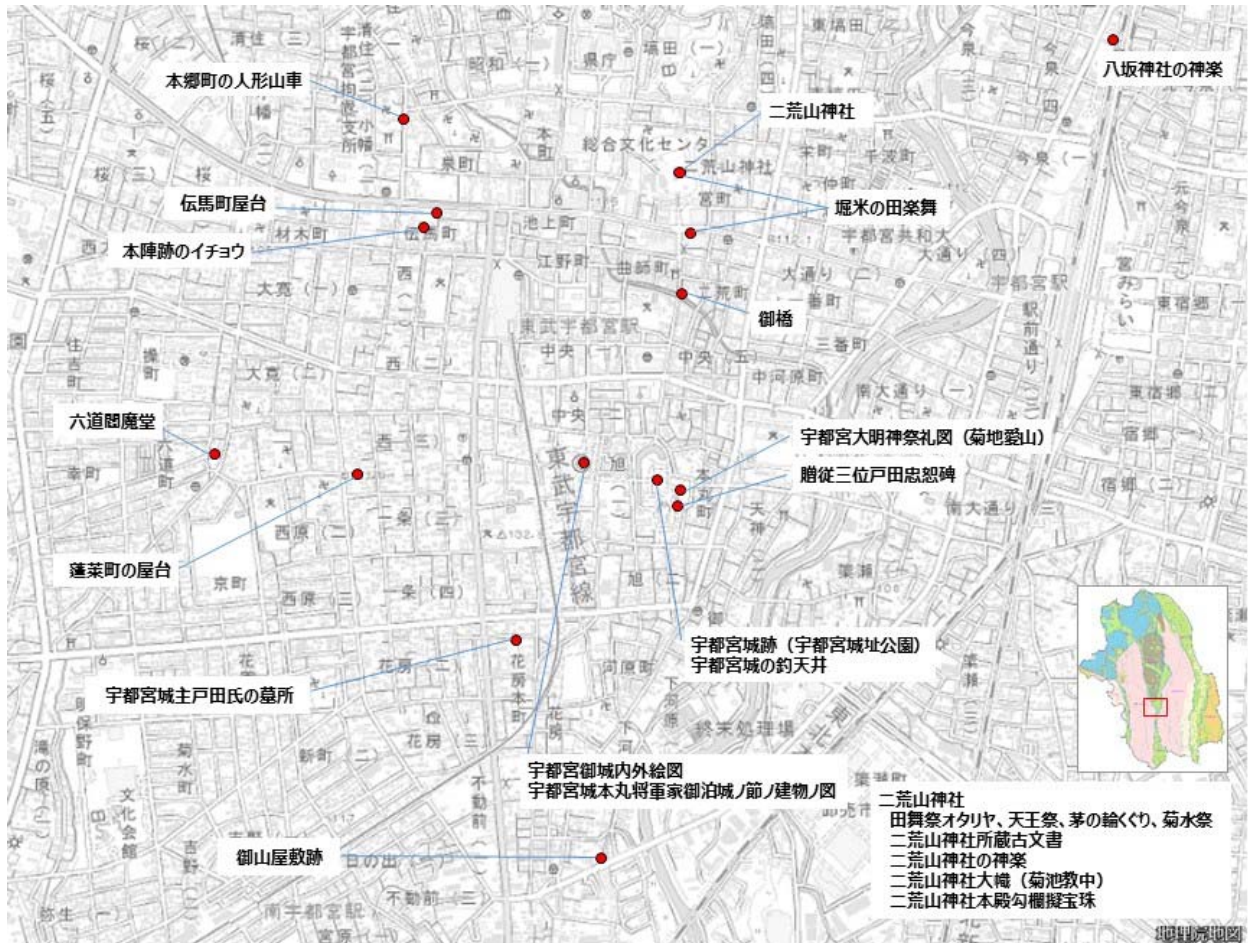


伝馬町屋台



火焰太鼓山車

■主な構成歴史文化資源の分布



■主な構成歴史文化資源

分類		構成歴史文化資源	
空間資源 (不動産)	自然的空間資源	1-6 名木	本陣跡のイチョウ
		2-1 道	日光街道と奥州街道の追分、奥州街道、日光街道
	歴史的空間資源	2-3 軌道(水運、用水)	御用川
		2-6 古墳・塚	根来塚
		2-7 城跡・遺跡	宇都宮城跡
		2-8 寺院・神社・祠等	二荒山神社、六道閻魔堂
		2-9 旧跡	御山屋敷跡、本陣・問屋場・貫目改所跡、高札場跡、歌橋番所跡、佐野口木戸跡、西館堀跡、三日月堀跡、地蔵堀跡、地蔵堀跡、材木町木戸跡、張番木戸跡、百間堀跡、松ヶ峰門跡、南館堀跡、今小路門跡、上蓮池跡、下蓮池跡、赤門跡、大手門跡、安養院
		2-11 町名・地名・屋号	旧町名
生活資源 (動産)	ヒト・生き物	3-1 人物	本多正純、戸室氏(宇都宮藩御用鋳物師)、根来同心、戸田氏
		4-1 祭礼	菊水祭、天王祭、オタリヤ、茅の輪ぐり(大祓式)、田楽祭
	コト	4-2 芸能	☆二荒山神社の神楽、☆八坂神社の太々神楽、☆宇都宮鷹木遣り、☆堀米の田楽舞
		4-3 民間信仰・年中行事	首切地蔵
		5-1 美術品	☆宇都宮大明神祭礼園、☆二荒山神社大幟、宇都宮城の襖絵
	モノ	5-3 金属工芸品	☆二荒山神社本殿勾欄擬宝珠、二荒山神社の手水鉢
		5-6 道祖神・道標・碑	☆贈従三位戸田忠恕碑
		5-7 墓所・墓石	☆宇都宮城主戸田氏の墓所、戸田三左衛門忠厚の墓、戸田光形の墓
		5-8 祭礼・芸能にまつわる道具	☆本郷町の人形山車附墨書収納箱及び人形製作者名木札、☆蓬萊町の屋台、◆伝馬町屋台
	記録・情報	6-1 文献資料	☆二荒山神社所蔵古文書
6-2 絵図		☆宇都宮御城内外絵図、☆宇都宮城本丸將軍家御泊城ノ節ノ建物ノ図	
6-3 民話・伝説・出来事		宇都宮城の釣天井、御橋、訴人婆さん、長柄稲荷(へび長屋)	

★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線：市民ワークショップで取り上げられた資源

< 7 > 二度の戦災をたくましく生き抜いたまち うつのみや



宇都宮空襲により焼失した市街地（中島みどり氏撮影）

■ストーリー

うつのみやが巻き込まれた二度の戦争ってなに？

一度目は、1868年に勃発した戊辰戦争で、宇都宮藩が新政府側につき、旧幕府軍と戦った。この時、宇都宮のまちは戦火に包まれ大きな被害を被った。その後文明開化により宇都宮の町並みも近代的な造りとなり、1884年には栃木町から宇都宮町に県庁が移転し、名実共に県の政治・経済の中心となる。日露戦争後の1907年には陸軍第14師団の宇都宮移駐が決定し市内各所に軍の関連施設がつくられ、多くの人々が宇都宮に集まり都市化が進んだ。太平洋戦争が勃発すると、市内に中島飛行機製作所や日本製鋼など次々と軍需工場が進出した。

二度目は、太平洋戦争が終わりに近づいた1945年7月12日、米軍機により宇都宮が空襲を受け、市街地の大半が焼失した。しかし、市民の強いエネルギーにより復興が進められた。この時の空襲で黒こげになった旭町の大きいちょうが、復興のシンボルとして人々の心の支えとなった。いちょうが市の木となった由縁である。ちなみに終戦後、第14師団の中国からの帰還兵が本場の餃子を持ち帰り、宇都宮餃子のルーツとなったと言われている。



宇都宮中央女子高赤レンガ倉庫

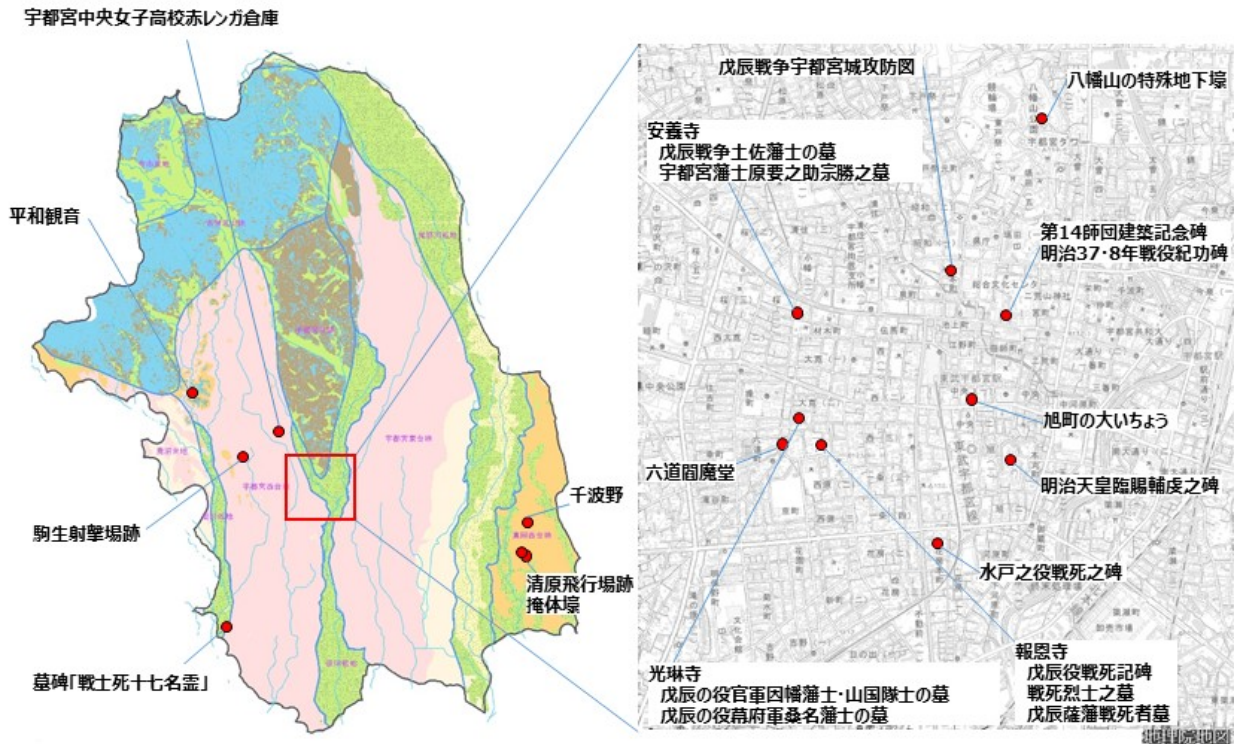


八幡山の特殊地下壕



旭町の大きいちょう

■主な構成歴史文化資源の分布



■主な構成歴史文化資源

分類		構成歴史文化資源	
空間資源 (不動産)	自然的空間資源	1-6 名木	☆旭町の大いちよう
	歴史的空間資源	2-4 建造物	★宇都宮中央女子高校赤レンガ倉庫 (旧第六十六歩兵連隊倉庫)
		2-8 寺院・神社・祠等	六道閻魔堂
		2-9 旧跡	千波野, 六道古戦場, 幕田古戦場
生活資源 (動産)	コト	2-10 土木構造物	駒生射撃場跡 (駒生湿地), 掩体壕, 清原飛行場跡, 八幡山の特殊地下壕, 横穴式防空壕
		4-4 産業・生業・手仕事	中島飛行機宇都宮製作所
	モノ	5-4 仏像・石仏	平和観音
		5-6 道祖神・道標・碑	戊辰役戦死記碑, 明治天皇臨賜輔度之碑, 水戸之役戦死之碑, 第14師団建築記念碑, 明治37・8年戦役紀功碑
		5-7 墓所・墓石	墓碑「戦士死十七名霊」, 六道戊辰役戦士墓, 戦死烈士之墓, 戊辰薩藩戦死者墓, 戊辰の役官軍因幡藩士・山国隊士の墓, 戊辰の役幕府軍桑名藩士の墓, 戊辰戦争土佐藩士の墓, 宇都宮藩土原要之助宗勝之墓, 戊辰戦争岩村田藩士の墓, 会津藩士の墓, 西組藤ノ城の戦没者芳名碑・白澤宿明星院の供養塔
	記録・情報	5-11 その他 (モノ)	二宮町の監視哨 (吉成計助氏蔵)
		6-2 絵図	☆戊辰戦争宇都宮城攻防図, 宇都宮製作所作業風景 (風間完土画)
		6-3 民話・伝説・出来事	六道閻魔堂
		6-4 写真	戊辰戦争・二荒山神社前の動き, 宇都宮市および第14師団全図, 宇都宮での演習, 黒く塗られた県庁舎, 米艦載機に撮影された中島飛行機宇都宮製作所, 大谷地下工場, 消失した大ケヤキと市役所, いち早く復興したパンパ仲見世 等
		6-5 地図	中島飛行機株式会社宇都宮製作所工場敷地図
6-6 その他 (記録・情報)	増産協力の広告 (『下野新聞』昭和19年1月22日)		

★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線: 市民ワークショップで取り上げられた資源

＜ 8 ＞ 農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地 うつのみや



天下一関白神獅子舞

■ストーリー

どのようにして豊かな田園風景は育まれてきたの？

江戸時代の初め、宝木台地は、水はけの良い地質のため稲作に適さない土地であったが、江戸時代の終わりの頃に「宝木用水」が完成し21万坪の水田が宝木台地に広がった。また、明治時代には、宝木用水から分水して江曾島まで流れる用水が完成し、「新川」と名付けられた。この人工の川はさらに延伸され、姿川に合流する。現在でもこの用水は農業用として一部が使われているほか、雨水を処理する排水路等、市民に身近な川として今も流れ続けている。

本市の田園地帯では、「風雨順調・五穀豊穰」を願って様々な伝統行事が行われている。特に北部を中心に行われている獅子舞は、雄2匹、雌1匹からなる「一人立ち三匹獅子舞」で、毎年盆や二百十日に、あるいは道や橋が完成した時などに「悪疫退散」や「家内安全」、「風雨順調」などを願って行われている。また、太陽や月をはじめとする神仏に、「風雨順調・五穀豊穰」などを祈願する天祭は、天棚を設置し、念仏を唱えながら祭壇の周囲を回るもので、江戸後期に盛んとなり、50カ所以上の地に存在していたことが知られている。日光街道沿では、石那田八坂神社天王祭付祭や徳次郎智賀都神社付祭でそれぞれ6台の彫刻屋台が繰り出され、地域の一大行事となっている。これらの行事は、地域の人々の結びつきを強め、地域の一体感を生み出している。



宗円獅子舞

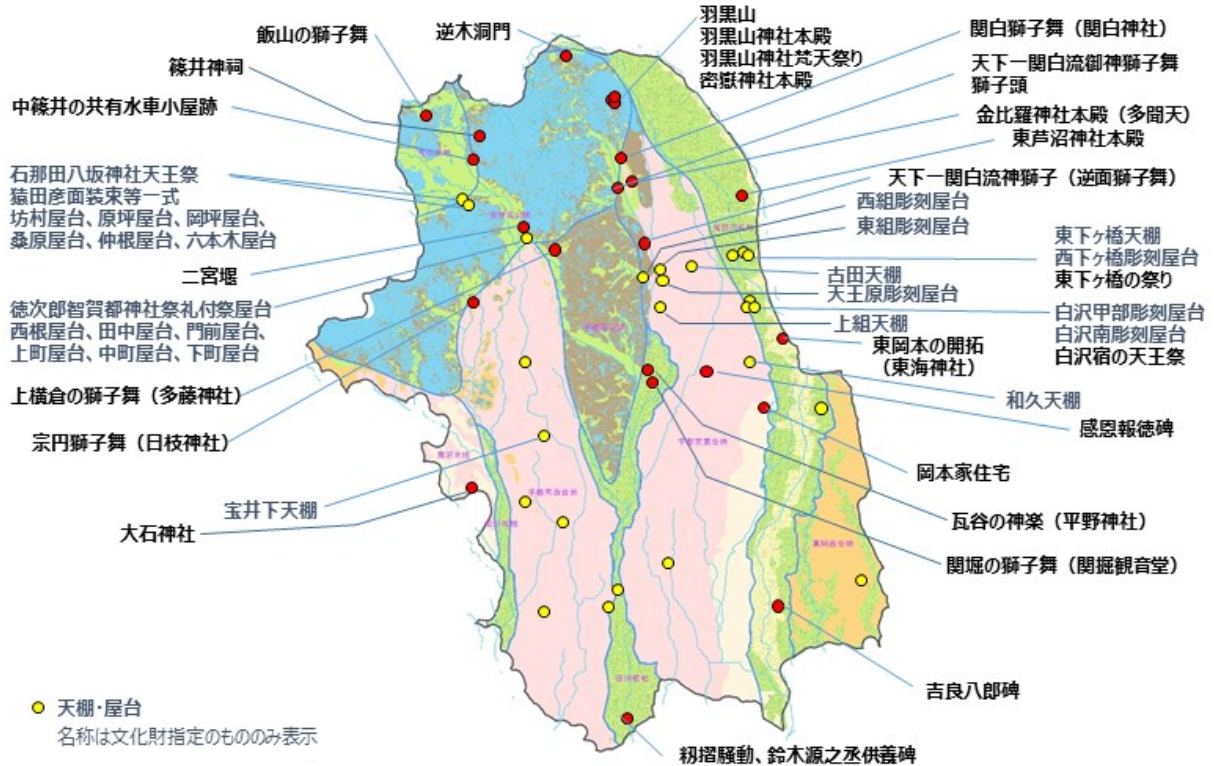


天下一関白流御神獅子舞



天下一関白流神獅子

■主な構成歴史文化資源の分布



■主な構成歴史文化資源

分類		構成歴史文化資源	
空間資源(不動産)	自然的空間資源	1-3 山	羽黒山
		2-1 道・町割	東岡本の開拓(東海神社)
	歴史的空間資源	2-3 軌道(水運・用水)	二宮堰, 徳次郎用水(石那田用水・徳次郎六郷用水), 宝木用水, 逆木用水, 用水西堀, 逆木洞門
		2-4 建造物	★岡本家住宅(主屋・長屋門)
		2-9 旧跡	中篠井の共有水車小屋跡
生活資源(動産)	ヒト・生き物	3-1 人物	菊地教中, 菊地孝兵衛, 二宮尊徳, 吉良八郎, 鈴木源之丞
	コト	4-1 祭礼	羽黒山神社梵天祭り, 東下ヶ橋の祭り, 下組の天祭, 石那田八坂神社祭礼, 白沢宿の天王祭, 篠井町上の天祭, 野尻長坂の天祭, 瓦谷町下の天祭, 下砥上町の大杉様, 中島町の大杉様
		4-2 芸能	☆瓦谷の神楽, ☆宗円獅子舞, ◆関白獅子舞, ☆天下一関白流神獅子(逆面獅子舞), ☆天下一関白流御神獅子舞(中里西組獅子舞), ☆関堀の獅子舞, ☆飯山の獅子舞, ☆上横倉の獅子舞, 瑞穂野の田植歌
		4-3 民間信仰・年中行事	大杉様のお祭り, 旧部の雨乞い祭り, 虫追い, 百味祭, 雷電神社の雷除け, 湯殿山権現神社の嵐・雷・台風除け, 東岡本の水神様, 飯山愛宕神社の降雨祈願
		4-5 伝統食	しもつかれ
	モノ	5-6 道祖神・道標・碑	☆吉良八郎碑, 羽摺騒動・鈴木源之丞供養碑, 感恩報徳碑, 駐馬塚の碑
		5-8 祭礼・芸能にまつわる道具	☆石那田八坂神社天王祭祭礼神輿並びに屋台・神楽獅子・猿田彦面・採物・衣装一式, ☆徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台, ☆東下ヶ橋天棚, ☆宝井下天棚, ☆白沢甲部彫刻屋台, ☆白沢南彫刻屋台, ☆坊村屋台, ☆原坪屋台, 宝木本町仁良塚屋台, 板戸町中才天棚...他屋台15点, 山車2点, 天棚42点
		5-11 その他(モノ)	東岡本の二宮尊徳像
	記録・情報	6-1 文献資料	☆黙雷上人関係文書, 消息往来
		6-3 民話・伝説・出来事	五十里洪水, 五十里洪水の予言, 大石神社, 万年橋とカッパの恩返し

★国指定等 ◆県指定 ☆市指定等 下線: 市民ワークショップで取り上げられた資源



羽黒山神社・梵天祭



二宮堰



吉良八郎の碑

■市内に所在する天棚・屋台のリスト

NO.	名称	地区
1	274 屋台(伝馬町屋台)	本庁
2	27 本郷町の人形山車 附 墨書収納箱 及び 人形製作者名木札	本庁
3	33 蓬萊町の屋台	本庁
4	2294 大黒町花屋台	本庁
5	2299 上四条屋台	本庁
6	2300 大工町屋台	本庁
7	2301 鉄砲町山車	本庁
8	2323 細谷町天棚	宝木
9	2303 石井町下川岸天棚	平石
10	2312 石井町岡天棚	平石
11	2317 石井町古城内天棚	平石
12	2328 石井町福島天棚	平石
13	2341 石井町久部天棚	平石
14	2318 柳田町下柳田天棚	平石
15	2304 板戸町中才天棚	清原
16	2327 板戸町反目天棚	清原
17	2330 板戸町新屋敷天棚	清原
18	2342 板戸町辻天棚	清原
19	2325 上籠谷町上天棚	清原
20	2326 上籠谷町下天棚	清原
21	2332 道場宿町天棚	清原
22	2335 水室町天棚	清原
23	2340 満美穴町天棚	清原
24	2307 下栗町下栗1丁目天棚	横川
25	2314 台新田町天棚	横川
26	2322 上横田町天棚	横川
27	2320 上桑島町中郡天棚	瑞穂野
28	2329 上桑島町岡之内天棚	瑞穂野
29	2324 東木代町天棚	瑞穂野
30	2309 海道町天棚	豊郷
31	2343 瓦谷町天棚	豊郷
32	2295 宝木本町仁良塚屋台	国本
33	2337 新里町三区天棚	国本
34	2334 新里町四区天棚	国本
35	99 徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台 ア 西根屋台	富屋
36	100 徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台 イ 田中屋台	富屋
37	101 徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台 ウ 門前屋台	富屋
38	102 徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台 エ 上町屋台	富屋
39	103 徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台 オ 中町屋台	富屋
40	104 徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台 カ 下町屋台	富屋
41	2339 大網町天棚	富屋
42	40 坊村屋台	篠井
43	41 原坪屋台	篠井
44	42 岡坪屋台	篠井
45	43 桑原屋台	篠井
46	44 仲根屋台	篠井
47	45 六本木屋台	篠井
48	2306 篠井町下篠井天棚	篠井
49	2333 下小池町天棚	篠井
50	31 宝井下天棚	城山
51	2296 田野町屋台	城山
52	2305 下荒針町野尻・長坂天棚	城山
53	2313 古賀志町天棚	城山
54	2315 福岡町天棚	城山
55	2331 飯田町天棚	城山
56	2338 田下町天棚	城山
57	2308 鶴田町天棚	姿川
58	2310 上欠町天棚	姿川
59	2311 下欠町天棚	姿川
60	2316 砥上町天棚	姿川
61	2321 西川田町天棚	姿川
62	2297 御田長島町花屋台	雀宮
63	2336 東谷町天棚	雀宮
64	28 東下ヶ橋天棚	河内
65	29 上組天棚	河内
66	30 古田天棚	河内
67	32 和久天棚	河内
68	34 白沢甲部彫刻屋台	河内
69	35 白沢南彫刻屋台	河内
70	36 西下ヶ橋彫刻屋台	河内
71	37 東組彫刻屋台	河内
72	38 西組彫刻屋台	河内
73	39 天王原彫刻屋台	河内
74	1863 下組天棚	河内
75	3884 立伏天棚	河内
76	3886 下室井天棚	河内
77	3891 甲内天棚	河内
78	3892 北組南天棚	河内
79	3893 田中天棚	河内
80	3894 釜根天棚	河内
81	3895 旧部天棚(彫物)	河内
82	3896 西下ヶ橋天棚(部材のみ)	河内



伝馬町屋台



徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台



石那田八坂神社天王祭



白沢南彫刻屋台



東下ヶ橋天棚

※網掛けは指定文化財

※出典

「宇都宮市屋台・天棚等調査」

「河内町の屋台と天棚」